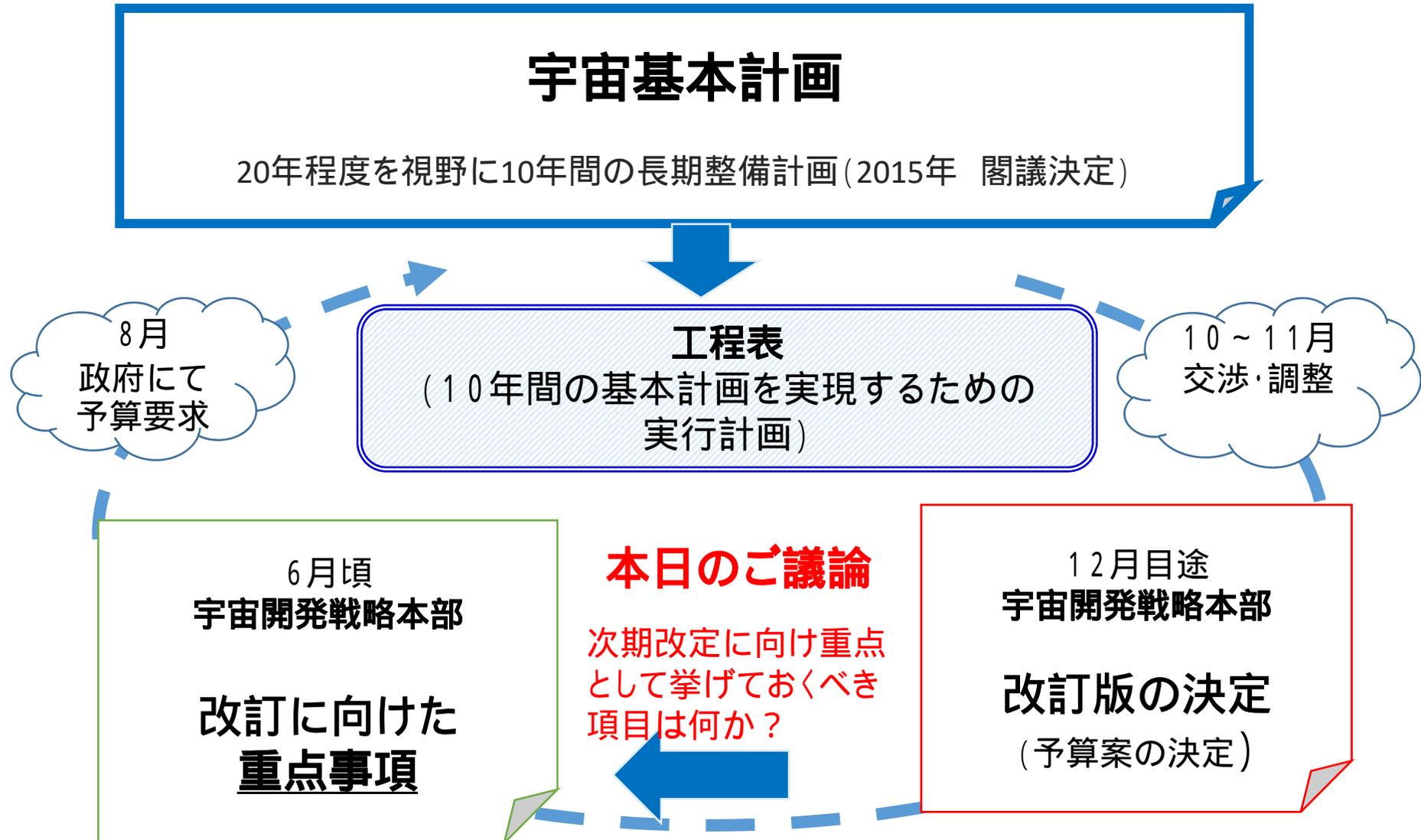


# 今後の宇宙民生利用部会の進め方について (宇宙基本計画工程表改定に向けた重点事項)

平成31年3月22日

宇宙開発戦略推進事務局

# 宇宙基本計画の工程表改訂に向けて



## 準天頂衛星7機体制の整備、利活用促進(工程表1, 2, 43)

【工程表1、2、43】平成31年度以降の取組(要約)

2023年度めどの準天頂衛星7機体制構築に向けて、JAXAとの連携を強化した研究開発体制により効率的に機能・性能向上を図る。

「準天頂衛星システム利活用促進タスクフォース」を2019年度以降も継続して開催し、グッドプラクティスの共有等を行う。

より多くの分野における実証事業を実施し、準天頂衛星システムの先進的な利用モデルを創出。海外における準天頂衛星の利用拡大を図るため、引き続き国際会議等の場において海外の官民関係者に積極的に情報発信する。

衛星安否確認システムについて、2021年度に20都道府県への導入を進める。

防衛分野における準天頂衛星システムの利用の拡大について検討する。



準天頂衛星については、4機体制によるサービスが開始され、2023年度に向けた7機体制の整備に向けた準備が始まりつつある。

一方で、その利活用に向けては、民間でも様々な取り組みが始まりつつある。

今後これをより強固なもととするために、さらにどのように取り組みを強化していくべき何か。

## 衛星リモートセンシング関係(工程表3)

【工程表3】利用ニーズの各プロジェクトへの反映

【工程表7】先進光学・レーダ衛星

### 平成31年度以降の取り組み(要約)

先進的衛星モデル事業を2019年度にも実施すること等により、衛星利用ニーズを継続的に掘り起こしつつ、関係府省に衛星利用ニーズ等を共有し、将来の衛星開発や衛星データの提供等に継続的に反映する仕組みの具体的な在り方について検討する。

例えば、防災分野においては、求められる被災状況の早期把握のための衛星データの提供時間短縮や提供形式の在り方等のニーズについて検討し、防災現場での試行的取組を通じデータ提供側と利用側の一層の連携を進める。

先進光学衛星(ALOS-3)・先進レーダ衛星(ALOS-4)の後継機をにらみ、産学官の利用ニーズを踏まえつつ我が国にとって必要な衛星ミッションの在り方やそれを実現しうる技術等の検討を進め、2019年年央を目途に基本的な方針を整理する。



先進光学・レーダー衛星については、それぞれ2020年の打ち上げが予定されているところ、将来の詳細観測衛星のあり方を見据え、リモートセンシング衛星はどのような政策目的に重点を置くべきか。

## 宇宙ビジネス環境整備関係(工程表28)

### 【工程表28】宇宙ビジネス環境整備

#### 平成31年度以降の取り組み

#### 【工程表28】平成31年度以降の取組

宇宙活動法及び衛星リモセン法の運用にあたり、民間事業者による宇宙開発利用促進のための施策の一環として、年間3回程度の説明会の開催や、事前相談を行うとともに、迅速な審査、柔軟かつ透明性の高い運用に配慮する。

軌道上補償や宇宙資源探査・開発については、国内外の情勢を注視しつつ、必要な事業環境について調査、検討を行う。

サブオービタル飛行に関して、民間の取組状況や国際動向を踏まえつつ、必要な環境整備の検討を行う。



民間の宇宙活動の活発化に伴う制度整備については、宇宙産業振興の観点から取り組むべきと考えられるが、どのような優先度で取り組んでいくべきか。

## 宇宙データ利用関係(工程表29)

### 【工程表29】新事業・新サービスを創出するための民間資金や各種支援策の活用等

#### 平成31年度以降の取り組み(要約)

宇宙データ利用モデル事業を実施するとともに、エンドユーザによる宇宙データ利用の広がりを促進するため、S-NETの「宇宙ビジネス創出推進自治体」とも連携しつつ、様々な分野や新たな地域での潜在的ニーズの掘り起しを通じた利活用促進や、グッドプラクティスの積極的な横展開等を強化する。

政府衛星データのオープン&フリー化に向けたデータ利用環境整備について、ユーザの利便性向上を実現すること等により宇宙データの利活用促進を目指す。

関係省庁・企業等と準天頂衛星システムの開発状況・実証等を共有し、社会実装支援等の取組を進めるとともに、G空間情報センターも活用しつつ、G空間プロジェクトの推進を図る。

2018年度の準天頂衛星4機体制の運用開始に伴い利用可能となる高精度な位置情報を活かして「G空間プロジェクト」を推進するための政府の司令塔機能の強化及び体制整備について、早急に検討を行う。



宇宙データ利用を進めるためには、従来の宇宙以外の関係者を巻き込む取り組みに加え、ユーザに近いところへのアプローチを深めつつあるが、さらにどのような方法があるのか。

また、宇宙利用を進めるためのデータプラットフォームについて、今後どのようなことに取り組んでいくべきか。

## 今後のスケジュール

---

3月22日（金）15:30～17:00

- 1．将来のリモートセンシング衛星の在り方について
- 2．リモートセンシング衛星データ、準天頂衛星の利活用促進について
- 3．今後の宇宙民生利用部会の進め方について  
（宇宙基本計画改定に向けた重点事項）

4月中下旬～5月

- ・宇宙産業振興の強化に向けた取り組み
  - ・宇宙データ利用関連
  - ・将来リモートセンシング衛星のあり方について
- を議論し、
- ・宇宙基本計画工程表改定に向けた重点事項（宇宙民生利用部会関係）  
をとりまとめる。